

【NEWS RELEASE】

2021年11月30日

各 位

株式会社三井住友銀行

日本板硝子株式会社に対する「ESG/SDGs評価」に基づく
コミットメントライン・シンジケーションを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、日本板硝子株式会社（代表執行役社長兼 CEO：森 重樹）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションを組成いたしました。

本件は、コミットメントライン・シンジケーションの組成と併せて、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、日本板硝子株式会社のESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※2）達成への貢献を評価する取組となります。

今回対象となりました日本板硝子株式会社の取組は、環境側面（E）、社会側面（S）およびガバナンス側面（G）の各項目について非常に高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、大変優れた取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への高い貢献意欲をお持ちであることから、最上位評価の取得となりました。

特に、ESGおよびSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

E：製造工程からの温室効果ガスの排出削減に向けて、2030年までに2018年対比で21%削減する目標を設定し、SBT認定を取得。再生可能エネルギーも積極的に導入し、2024年には全発電量の約50%を再生可能エネルギーで賄うことを目標に掲げている点。

S：CSR調達の実効性を高めるため、「NSGグループサプライヤー行動規範」を制定し、取引先のサステナビリティ評価・モニタリングやアンケート調査等を継続して実施。また、多様な人材の活躍推進に向けて、海外現地採用人材の幹部への登用を行い、女性管理職の比率を向上させるグループ目標を設定している点。

G：株主向けの媒体で経営トップが、健康や衛生、環境・エネルギー問題に真摯に取り組むことや、ESGへの対応を経営の中核に据えることを明確にしている点。

SDGs：太陽電池パネル用ガラスや省エネルギーガラスの提供を通じた環境負荷削減への貢献、PCR装置や抗菌・抗ウイルスガラスの提供を通じた衛生ニーズへの対応など、製品の提供を通じて社会課題解決に貢献している点。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価シンジケーション」およびFTSE RussellのESG評価

を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境 (Environmental)、社会 (Social)、企業統治 (Corporate Governance) の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。